

# 平成 23 年度決算 牧之原市の普通会計財務諸表について(概要)

## 1. 貸借対照表

年度末時点における市の資産（道路、施設など）と、その資産を調達するためにどのような財源（負債、純資産）でまかなってきたのかを分かるように表しています。

左側に資産、右側に負債と純資産（資産と負債の差額）を表示し、左右のバランスが取れていることから「バランスシート」と呼ばれます。

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

資産の部 市が住民サービスを提供するために保有する資産		負債の部 将来の世代が負担していくもの	
<b>1</b> 公共資産	782 億 50 万円	<b>1</b> 固定負債	211 億 412 万円
有形固定資産 (道路・公園・庁舎・学校など)	781 億 7,245 万円	(基準日の翌日から 1 年以降に支払いや返済が行われるもの)	
売却可能資産	2,805 万円	地方債	175 億 2,645 万円
		退職手当引当金	35 億 7,767 万円
<b>2</b> 投資等	44 億 9,143 万円	<b>2</b> 流動負債	21 億 7,688 万円
投資及び出資金	33 億 5,263 万円	(1 年以内に支払いや返済をすべきもの)	
基金等	8 億 2,325 万円	翌年度償還予定地方債	20 億 1,168 万円
その他(貸付金など)	3 億 1,555 万円	その他	1 億 6,520 万円
<b>3</b> 流動資産	41 億 3,255 万円	<b>純資産の部</b>	
現金預金、未収金		これまでの世代がすでに負担してきたもの(正味財産)	
		純資産合計	635 億 4,348 万円
<b>資産合計</b>	<b>868 億 2,448 万円</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>868 億 2,448 万円</b>

## 2. 行政コスト計算書

(自平成 23 年 4 月 1 日  
至平成 24 年 3 月 31 日)

人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない経常的な行政活動に伴うコストと、また、その行政サービスの見返りとして得られる使用料・手数料などの収入を表しています。

コストには、退職手当引当金繰入等や減価償却費など、現金の支出を伴わないコスト(非現金コスト)についても計上しています。

経常行政コストから経常収益を引いた差額が、当該年度の純経常行政コストになります。

右記の行政コスト計算書は、人にかかるコスト(人件費)、物にかかるコスト(物件費)...など、コストを性質別に見ていますが、詳細の行政コスト計算書では、教育、福祉...など、コストがどんな目的に使われたかを目的別に見ることもできます。

<b>経常行政コスト (A)</b>	<b>157 億 7,922 万円</b>
<b>1</b> 人にかかるコスト	29 億 2,982 万円
(人件費、退職手当引当金繰入等、賞与引当金繰入額)	
<b>2</b> 物にかかるコスト	42 億 3,752 万円
(物件費、維持補修費、減価償却費)	
<b>3</b> 移転支的コスト	82 億 4,743 万円
(社会保障給付、補助金等、他会計等への支出額、他団体への公共資産整備補助金等)	
<b>4</b> その他のコスト	3 億 6,445 万円
(支払利息、回収不能見込計上額)	
<b>経常収益 (B)</b>	<b>5 億 4,145 万円</b>
<b>1</b> 使用料・手数料	3 億 3,014 万円
<b>2</b> 分担金・負担金・寄附金	2 億 1,131 万円
<b>純経常行政コスト(A - B)</b>	<b>152 億 3,777 万円</b>

### 3. 純資産変動計算書

この計算書からは、貸借対照表の純資産に計上されている額が、当該年度中にどのように増減したのかが分かります。総額の変動だけでなく、どのような財源や要因で増減したかの情報も把握することができます。

〔 自 平成 23 年 4 月 1 日  
至 平成 24 年 3 月 31 日 〕

平成 22 年度末純資産残高	639 億 8,301 万円
純経常行政コスト	152 億 3,777 万円
一般財源	119 億 8,073 万円
地方税	79 億 5,202 万円
地方交付税	26 億 6,168 万円
その他行政コスト充当財源	13 億 6,703 万円
補助金等受入	28 億 4,994 万円
国県補助金等	
臨時損益	3,613 万円
災害復旧事業費、公共資産除売却損益	
その他	371 万円
資産評価替えによる変動額	
平成 23 年度末純資産残高	635 億 4,349 万円

### 4. 資金収支計算書

資金の収入・支出の情報を「経常的収支」、「公共資産整備収支」、「投資・財務的収支」の三つに区分し、年間の実際の現金の動きを表しています。

市の収支を性質別に区分することで、どのような活動・資金が必要とされているかが分かります。資金収支計算書は、財務 4 表の中で唯一、現金主義により作成されています。

〔 自 平成 23 年 4 月 1 日  
至 平成 24 年 3 月 31 日 〕

期首資金残高	11 億 4,463 万円
(平成 22 年度末の歳計現金)	
経常的収支	36 億 5,285 万円
収入(地方税、地方交付税、国県補助金など)	
支出(人件費、物件費、社会保障給付、補助金など)	
公共資産整備収支	11 億 2,999 万円
収入(国県補助金等、地方債など)	
支出(公共資産整備支出など)	
投資・財務的支出	28 億 4,157 万円
収入(貸付金回収額など)	
支出(基金積立額、地方債償還額など)	
期末資金残高	8 億 2,592 万円
(平成 23 年度末の歳計現金)	

## 財務 4 表から分かる牧之原市の財政状況



### 住民一人当たりの資産は 179 万円、負債は 48 万円

財政状況を他団体と比較する際、人口の規模などにより単純比較することが困難ですが、財務諸表の各項目の金額を、住民一人当たりで算出することで比較しやすくなります。

平均的な値としては、住民一人当たりの資産額 100～300 万円、負債額が 30～100 万円です。

牧之原市の人口は、48,439 人(2012 年 3 月末時点)。住民一人当たりの資産は 179 万円(868 億 2,448 万円(総資産)÷48,439 人)、負債は 48 万円(232 億 8,100 万円(負債合計)÷48,439 人)でした。

## これまでに形成された公共資産は、現在までにどのくらいの割合を負担してきたの？ 81.3%

資産形成の結果を表す公共資産のうち、純資産（正味財産）の占める割合を見ることで、これまでの世代がどの程度負担してきたかが分かります。これを、「社会資本形成の過去及び現世代負担比率」といいます。

$$\text{社会資本形成の過去及び現世代負担比率(\%)} = \frac{\text{純資産合計}}{\text{公共資産合計}} \times 100$$

$$635 \text{ 億 } 4,348 \text{ 万円} \div 782 \text{ 億 } 50 \text{ 万円} \times 100 = 81.3\%$$



社会資本形成の過去及び現世代負担比率は、率が高いほど、将来へ先送りしている負担が少ないことを意味します。牧之原市の平成 23 年度の当該比率は、上記計算式より、81.3%でした。

平均的な値が 50～90%であることから、公共資産形成にかかる将来世代の負担は比較的小さいと言えます。

## 将来世代が負担する地方債(借金)の割合は？ 25.0%

同じく資産形成の結果を表す公共資産のうち、地方債の残高（負債の部）の占める割合を見ることで、将来へ借金（地方債残高）をいくら先送りしたかが分かります。これを、「社会資本形成の将来世代負担比率」といいます。

$$\text{社会資本形成の将来世代負担比率(\%)} = \frac{\text{地方債残高}}{\text{公共資産合計}} \times 100$$

$$\frac{195 \text{ 億 } 3,813 \text{ 万円}}{782 \text{ 億 } 50 \text{ 万円}} \times 100 = 25.0\%$$

（地方債 175 億 2,645 万円、翌年度償還予定地方債 20 億 1,168 万円）



この比率の平均的な値は 15～40%で、過疎化が進んでいる団体や合併特例債（1）を発行している団体は比率が高くなる傾向にあります。

牧之原市は平成 17 年に合併し、また、年々人口が減少傾向にある中、平成 23 年度の当該比率は 25.0%となり、将来世代への借金の負担は比較的小さいと考えられます。

1 地方自治体の合併による地域振興や、旧地域間の格差是正のために施行される市町村建設計画に基づく事業のうち、特に必要と認められた事業に対して発行される地方債。合併年度及びこれに続く 10 年借入をすることができる。また、国が返済の 70%を交付税として負担するもの。

## 最も多く費用が投下された分野は“福祉”

行政コスト計算書より、経常行政コストが教育、福祉、環境衛生など、目的別にどの程度かかったかが分かります。

目的別に見ることで、その地方公共団体がどの分野に力を入れているかや、費用を投下しているかが把握できます。

右記円グラフより、牧之原市では、福祉に係る行政コストが、全体の約 3 割を占めていることが分かります。

